

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【令和7年3月】

■調査概要（データ対象期間：令和7年3月1日～3月31日）

○調査期間：令和7年3月28日～令和7年4月21日

○調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査及び全会員対象の
Web景気動向調査アンケート

○回収状況：建設業19企業、製造業22企業、卸売業17企業、小売業22企業
飲食業13企業、サービス業37企業（運輸、不動産仲介業を含む）
＜合計130企業＞

○調査項目：3月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価
状況向こう3ヵ月の業況見通し（DI値を集計）

（注）DI（Diffusion Index）値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。

※DI＝（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

松本市・松本商工会議所

概 況

○判断の基準

	好調	やや好調	横ばい	やや低調	低調
DI値	DI ≥ 20	20 > DI > 5	5 ≥ DI ≥ ▲5	▲5 > DI > ▲20	▲20 ≥ DI

1. 業況判断

- 全産業合計の業況DI(前年同月比ベース)はやや低調
前月(低調)から好転(▲22.6→▲15.4)
- 全産業合計の水準DIはやや低調
前月(低調)から好転(▲30.7→▲18.5)

業種ごとの業況判断(前年同月比ベース)						
	建設業	製造業	卸売業	小売業	飲食業	サービス業
業況DI	低調	やや低調	低調	横ばい	低調	やや低調
水準DI	やや低調	やや低調	低調	横ばい	低調	低調

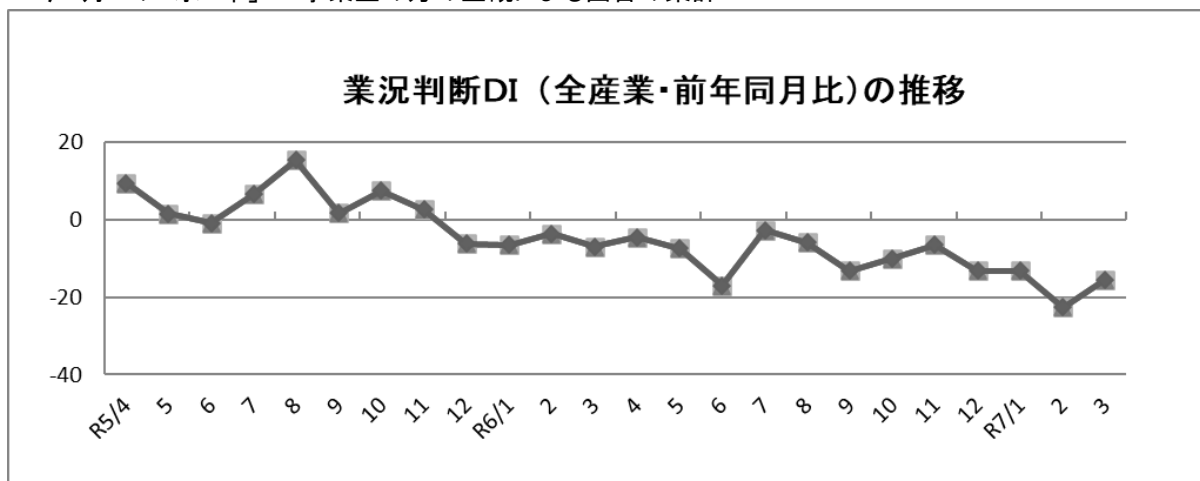
	業況[前年同月比]					今月の水準				
	好転%	不変%	悪化%	DI	前月との差	良い%	普通%	悪い%	DI	前月との差
合計	13.1 (8.8)	58.4 (59.8)	28.5 (31.4)	▲15.4 (▲22.6)	7.2	13.8 (8.0)	53.9 (53.3)	32.3 (38.7)	▲18.5 (▲30.7)	12.2
建設業	5.3 (0.0)	68.4 (56.2)	26.3 (43.8)	▲21.0 (▲43.8)	22.8	10.5 (0.0)	68.4 (56.2)	21.1 (43.8)	▲10.6 (▲43.8)	33.2
製造業	9.1 (9.1)	63.6 (59.1)	27.3 (31.8)	▲18.2 (▲22.7)	4.5	13.6 (4.5)	59.1 (54.6)	27.3 (40.9)	▲13.7 (▲36.4)	22.7
卸売業	5.9 (12.5)	52.9 (75.0)	41.2 (12.5)	▲35.3 (0.0)	▲35.3	11.8 (18.8)	41.1 (56.2)	47.1 (25.0)	▲35.3 (▲6.2)	▲29.1
小売業	22.7 (10.5)	59.1 (52.7)	18.2 (36.8)	4.5 (▲26.3)	30.8	22.7 (10.5)	54.6 (52.7)	22.7 (36.8)	0.0 (▲26.3)	26.3
飲食業	23.1 (13.3)	30.7 (33.4)	46.2 (53.3)	▲23.1 (▲40.0)	16.9	15.4 (20.0)	38.4 (20.0)	46.2 (60.0)	▲30.8 (▲40.0)	9.2
サービス業	13.5 (8.2)	62.2 (67.3)	24.3 (24.5)	▲10.8 (▲16.3)	5.5	10.8 (4.1)	54.1 (61.2)	35.1 (34.7)	▲24.3 (▲30.6)	6.3

※緑色の部分が前年同月と比較し増加した業種となります。

()内は前月データ

「業況[前年同月比]」…前年同月の業況との比較による回答の集計

「今月の水準」…事業主の方の主観による回答の集計



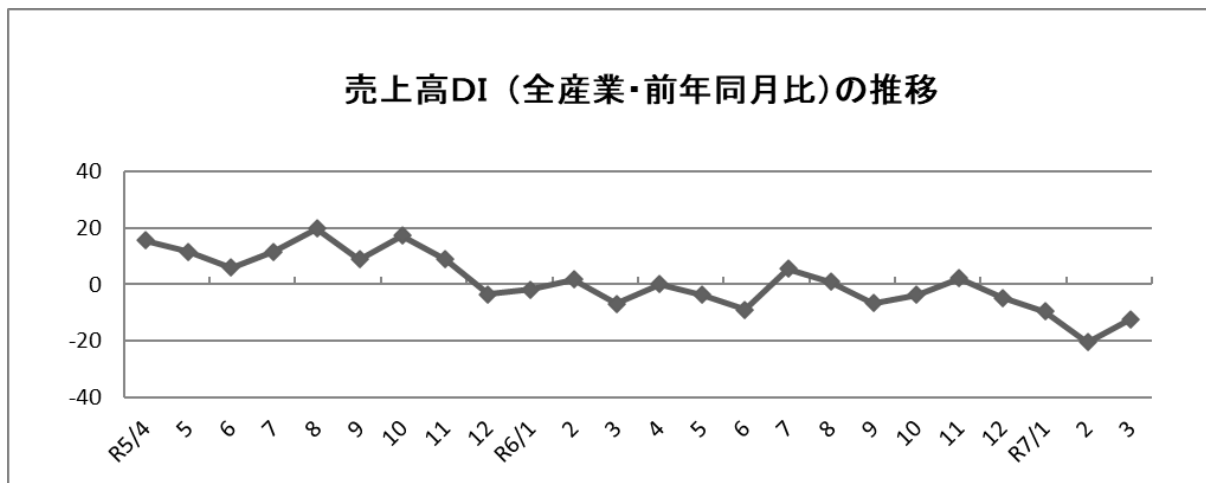
2. 売上高

- 全産業合計の売上高DIは、やや低調。
前月(低調)から好転(▲20.4→▲12.3)

業種ごとの売上高DI(前年同月比ベース)					
建設業	製造業	卸売業	小売業	飲食業	サービス業
低調	横ばい	低調	横ばい	やや低調	やや低調

【対前年同月比全産業合計売上高DIの推移】

R6年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年1月	2月	3月
▲ 6.9	0.0	▲ 3.7	▲ 8.9	5.5	1.0	▲ 6.5	▲ 3.7	2.1	▲ 4.7	▲ 9.5	▲ 20.4	▲ 12.3



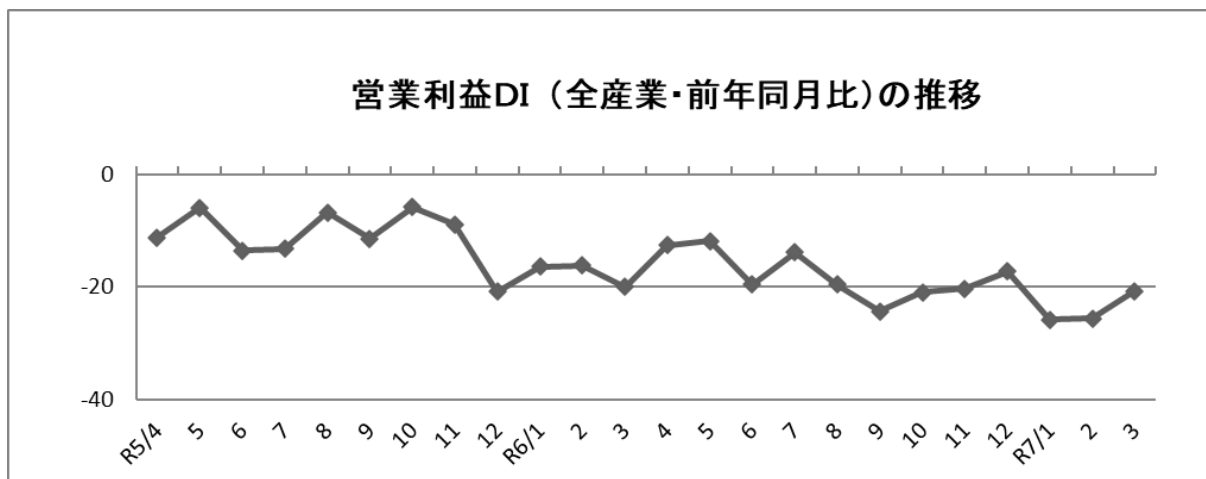
3. 営業利益

- 全産業合計の営業利益DIは低調。
前月(低調)から好転(▲25.6→▲20.8)

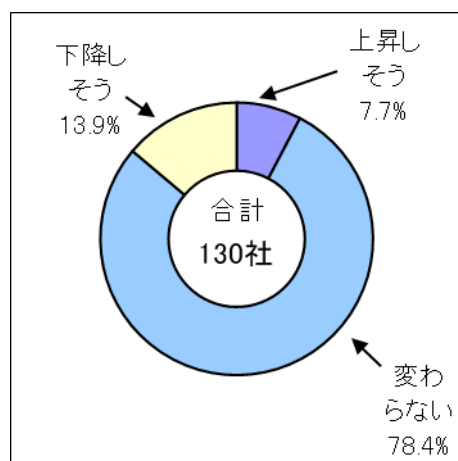
業種ごとの営業利益DI(前年同月比ベース)					
建設業	製造業	卸売業	小売業	飲食業	サービス業
低調	低調	低調	やや低調	低調	やや低調

【対前年同月比全産業営業利益DIの推移】

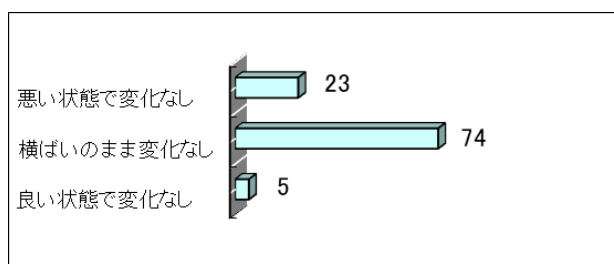
R6年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年1月	2月	3月
▲ 20.0	▲ 12.6	▲ 11.9	▲ 19.6	▲ 13.9	▲ 19.6	▲ 24.3	▲ 21.0	▲ 20.3	▲ 17.3	▲ 25.8	▲ 25.6	▲ 20.8



◇ 向こう3ヵ月の見通し ◇



◆ 『変わらない』の内訳 ◆



令和7年3月～5月の見通しDIは、

「上昇しそう」が減り(15.3%→7.7%)、「下降しそう」は増えた(10.2%→13.9%)

業種ごとの見通し DI					
建設業	製造業	卸売業	小売業	飲食業	サービス業
やや低調	やや好調	やや好調	低調	やや好調	やや好調

今後3ヶ月の見通しに対する各業種のコメント

【建設業】

「上昇しそう」 2月補正分、新年度分の発注に期待しているため

「変わらない」 物価高の影響で建築物件数が減少しているため

【製造業】

「変わらない」 公立学校関係のPTA業務委託が今年度で終了する案件が頻出しているため

「下降しそう」 販売方法を変えたため

トランプ関税による世界経済への影響のため

予定受注額が減少するため

今月が良過ぎたため

【卸売業】

「上昇しそう」 客数が増加しているため

大阪万博の開催により関西圏から賑わいが広がりみせ、土産物も好調に売れると思われるため

「変わらない」 取引先の利用額が減っているため

「下降しそう」 今年は入札案件がないため

販売環境の悪化のため

物価高騰により建設設備意欲が減退するため

【小売業】

「上昇しそう」 サテライトプラスに移転したため

観光客が増加しているため

昨年の改装の効果が出ているため

【飲食業】

「上昇しそう」 松本城の桜や歓迎会シーズンのため

「変わらない」 お客様の年齢が関係するため

「下降しそう」 ゴールデンウィークの後はおお客様の動きが鈍くなるため

【サービス業】

- 「上昇しそう」 国内旅行やインバウンド需要の増加のため
観光顧客の入込みが好調なため
観光のオンシーズンに向かうこととインバウンドの増加のため
- 「下降しそう」 4月から建築基準法が改正されるため

業種別景況

1. 建設業

売上高	受注量	受注単価	営業利益	今後3ヵ月の見通し
低調	低調	やや低調	低調	横ばい
前月比 22.8増加	前月比 17.5増加	前月比 2.0増加	前月比 17.5増加	前月比 6.2増加

【項目別DIの推移】

	R6年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年1月	2月	3月
売上高	▲ 22.2	▲ 21.0	▲ 25.0	▲ 38.8	▲ 25.0	▲ 29.4	▲ 27.7	▲ 28.6	▲ 10.5	▲ 9.1	▲ 35.3	▲ 43.8	▲ 21.0
受注量	▲ 16.6	▲ 21.1	▲ 30.0	▲ 27.7	▲ 25.0	▲ 41.2	▲ 27.7	▲ 42.9	▲ 36.8	▲ 36.4	▲ 47.1	▲ 43.8	▲ 26.3
受注単価	0.0	0.0	5.0	▲ 5.6	▲ 6.2	▲ 17.6	▲ 5.5	▲ 14.3	▲ 31.5	0.0	▲ 17.6	▲ 12.5	▲ 10.5
営業利益	▲ 22.2	▲ 21.0	▲ 30.0	▲ 50.0	▲ 43.8	▲ 41.2	▲ 33.3	▲ 35.8	▲ 31.5	▲ 27.3	▲ 41.2	▲ 43.8	▲ 26.3
見通し	▲ 11.1	0.0	15.0	5.5	▲ 12.5	▲ 11.8	0.0	▲ 14.3	▲ 26.3	▲ 4.6	▲ 5.9	▲ 6.2	0.0

<経営者の目・見方・etc>

鉄工

・物件数以上に単価の落ち込みがあり、地域によっては驚愕の値段が聞こえてくる。来年以降は様子が反転し、単価はともかく仕事量は増加傾向になると思われる。

電気工事

・あまり良くない。4月からは少しは良くなるかも知れない。
・世の中全体的に物価上昇で困惑している。そんな中、電工における電設資材も高騰の一途をたどっている状況に戸惑いを感じざるを得ない。状況的に一年ごとに高くなっている。

(コメント)

地域特性と状況

建設業においては、電設資材の価格高騰が続き、特に地方では価格転嫁が進まないため厳しい状況が続いている。物件数の減少に加えて、受注単価の下落も著しく、仕事量に対する利益の確保が難しくなっている。一方で、新年度に向けた発注案件への期待感は一定程度存在し、年度後半にかけては反転の兆しも見込まれている。

総括コメント

売上、受注量、営業利益ともに低調であり、厳しい経営環境が続いている。今後は公共発注などの動向を注視しつつ、資材価格高騰への対応として原価管理の強化や共同購買の導入など、コスト最適化への取組みが急務である。

2. 製造業

売上高	受注量	受注単価	営業利益	今後3ヵ月の見通し
横ばい	やや低調	好調	低調	低調
前月比 13.6増加	前月比 9.1増加	前月比 13.6増加	前月比 9.1減少	前月比 40.9減少

【項目別DIの推移】

	R6年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年1月	2月	3月
売上高	▲ 31.5	▲ 5.9	5.0	▲ 22.2	38.9	▲ 18.7	▲ 13.4	10.5	0.0	3.6	▲ 9.6	▲ 18.2	▲ 4.6
受注量	▲ 31.6	▲ 23.5	▲ 5.0	▲ 11.1	27.8	▲ 25.0	0.0	▲ 15.7	▲ 8.7	0.0	▲ 9.6	▲ 18.2	▲ 9.1
受注単価	▲ 10.5	11.7	15.0	11.1	33.3	6.3	13.3	31.5	4.3	21.4	4.8	9.1	22.7
営業利益	▲ 57.9	▲ 35.3	0.0	▲ 16.6	5.5	▲ 18.7	▲ 13.4	▲ 15.7	▲ 30.5	0.0	▲ 19.1	▲ 18.2	▲ 27.3
見通し	0.0	0.0	0.0	11.1	▲ 16.7	0.0	13.3	▲ 21.1	▲ 4.4	0.0	0.0	13.6	▲ 27.3

<経営者の目・見方・etc>

印刷	・印刷資材ディーラーの話では、県庁所在地を含む北信エリアですら価格転嫁がほとんど進んでいない模様。北信エリアでは依然としてデフレ営業を継続している企業がいるため、デフレマインドが強く残存している。北信エリアの中古印刷機材販売及び機器修理メンテナンスを扱う企業が、代表者の健康上の理由により廃業となった。印刷周辺関連業の事業継承問題も出てきている。公立学校関係、PTAなどの新年度業務委託案件が予算削減により終了との報告が頻出している。
精密機器	・米国の関税オペレーションがどのように影響するのか予測することは難しく、一旦様子見で様々な案件がペンディングになる恐れがある。
木工製品・組子製品 小型情報機器組立	・住宅産業ではハウスメーカーに押されて一般建築業界が苦労している。 ・周りの状況を見ると景気の悪さが目立つ。米国の動き次第によっては今後更に影響が出てきそうである。
金属塗装 農機具製造	・トランプ関税の国内製造業への影響がどこまで出るか不安である。 ・米価の推移によって自社にも影響が出てくるので注視していく。

(コメント)

地域特性と状況

価格転嫁が進まないデフレ的な状況が続いており、依然として価格競争が激しい状況にある。特に印刷関連では地域内需要の減少に加えて、事業承継や廃業問題が顕在化しており、構造的課題を抱えている。また、米国の関税政策の影響や教育関連の業務委託終了による受注減など、外的要因による先行き不安も大きい。

総括コメント

受注単価は上昇傾向にあるものの、営業利益や見通しは低調である。今後は新規市場の開拓や業種転換を見据えた投資判断が求められ、地域内での産学官連携や後継者支援の仕組みづくりが必要である。

3. 卸売業

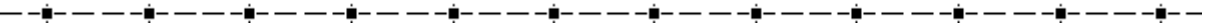
売上高	販売客数	販売客単価	営業利益	今後3ヵ月の見通し
低調	やや低調	やや低調	低調	やや低調
前月比 23.1減少	前月比 17.6減少	前月比 11.8減少	前月比 11.1減少	前月比 30.5減少

【項目別DIの推移】

	R6年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年1月	2月	3月
売上高	▲ 7.7	▲ 15.4	▲ 6.7	▲ 38.5	23.1	0.0	▲ 7.7	9.1	21.4	▲ 13.7	5.0	▲ 6.3	▲ 29.4
販売客数	0.0	▲ 15.4	6.6	▲ 30.8	15.4	0.0	▲ 15.4	0.0	▲ 7.2	▲ 13.6	▲ 15.0	0.0	▲ 17.6
販売客単価	0.0	0.0	20.0	▲ 7.7	15.4	▲ 10.0	▲ 15.4	▲ 9.1	21.4	▲ 9.1	30.0	0.0	▲ 11.8
営業利益	▲ 7.7	▲ 7.7	0.0	▲ 46.2	▲ 15.4	▲ 40.0	▲ 46.1	9.1	0.0	▲ 18.2	▲ 15.0	▲ 12.5	▲ 23.6
見通し	▲ 7.7	15.4	0.0	▲ 30.8	▲ 23.1	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 22.8	5.0	18.8	▲ 11.7

<経営者の目・見方・etc>

金属製品	・依然建築案件や生産用機械器具も低調である。トランプ大統領による関税の政策発表が出て、自動車関連を筆頭にどう影響してくるか不安な先行きである。どこも物量が確保できず、流通は依然弱気状態であり、我慢の時期が続いている状況である。
木材・建材	・令和7年4月からの4号特例縮小を受け、令和6年度第4四半期には着工の駆け込みによる需要増加が予想されたが、大きな動きはなかった。反面、4月以降は制度改正開始を受け、案件先送りによる受注減少の懸念がある。
土産品	・春休みシーズンは非常に好調であった。全国的には特に都市部や関東圏の温泉地などが賑わっている。
青果卸小売業	・物価高上昇のため消費者の買い控えがあり売上が減っている。不安を感じている。
自転車	・年々春需要の盛り上がりが遅れており、売上高が減少傾向になってきている。
魚介類	・4月の値上げ商品が多く、今後飲食店へしわ寄せが来そうで不安である。
建設材料卸	・物価、金利、住宅着工数、法令、投資助成金等について今後の動向をしっかりと追っていきたい。
生地	・米国の関税引き上げに伴う国内景気の悪化の影響が不安である。



(コメント)

地域特性と状況

卸売業では、建設資材や設備関連の需要減少が続いており、トランプ関税の影響や物流面での物量不足も重なって、流通全体が停滞している状況である。物価高の影響で消費者の買い控えが見られ、売上・利益ともに減少傾向にある一方、春休みや観光需要による一時的な販売増も観測されている。制度改正による建設需要の先送りも懸念材料である。

総括コメント

業況は低調であり、販売数・利益ともに減少が続いている。在庫回転率の見直しと、繁閑の差を見越した需要予測の精度向上が重要であり、一部業界では観光との連動による土産品・地域特産品の強化が差別化のカギとなる。

4. 小売業

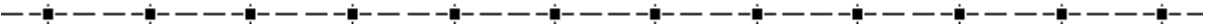
売上高	販売客数	販売客単価	営業利益	今後3ヵ月の見通し
横ばい	横ばい	横ばい	やや低調	やや好調
前月比 11.1増加	前月比 27.1増加	前月比 0.8増加	前月比 11.9増加	前月比 35.4増加

【項目別DIの推移】

	R6年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年1月	2月	3月
売上高	19.1	6.6	▲ 16.0	18.8	▲ 6.2	6.6	5.0	▲ 21.0	18.2	20.0	▲ 3.2	▲ 15.7	▲ 4.6
販売客数	0.0	0.0	▲ 16.0	6.2	▲ 18.7	▲ 6.6	▲ 15.0	▲ 42.1	0.0	▲ 16.0	▲ 3.3	▲ 31.6	▲ 4.5
販売客単価	19.1	20.0	▲ 12.0	12.5	▲ 6.2	▲ 6.6	10.0	▲ 10.5	4.6	0.0	6.5	▲ 5.3	▲ 4.5
営業利益	▲ 19.0	6.7	▲ 24.0	0.0	▲ 31.2	0.0	▲ 25.0	▲ 36.8	▲ 18.2	▲ 8.0	▲ 22.6	▲ 21.0	▲ 9.1
見通し	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 12.5	▲ 13.3	▲ 10.0	▲ 26.3	▲ 13.7	▲ 12.0	▲ 3.2	▲ 26.3	9.1

<経営者の目・見方・etc>

印章	・3月16日に予定されていた松本山雅FCとAC長野パルセイロの試合が積雪のため中止になり、寒冷地域でのプロスポーツチームの運営の大変さが露呈した。Jリーグには各ホームタウンの状況を考慮した試合日程の決定を望みたい。松本PARCO、井上百貨店の閉店で、中心市街地の人の流れの減少に拍車がかかるのが懸念される。松本商工会議所で行っている通行量調査の推移をネット上で見られるようであれば教えてほしい。
パン	・人手不足の中で希望人数を確保することができた。雇用にかかる経費が年々上昇してきている。
生鮮食品	・井上百貨店が閉店となりお客様が多く来店し忙しかった。これからどう変わっていくのだろうか注目である。
衣類販売	・駅前の食料品店の新規オープン等、お客様の流れも変わるので情報がほしい。
洋菓子店	・物価高で消費が低迷している。今後も当分の間低迷が続きそうである。
刃物研ぎ・土産	・同業者がまた一人減って厳しい業種に向かっている。
燃料	・工業団地の開発予定や原油価格の動向が気になる。



(コメント)

地域特性と状況

小売業においては、松本 PARCO や井上百貨店の閉店によって中心市街地の人流が減少し、商圈の縮小が懸念されている。一方で、新規店舗の出店や店舗改装の効果、観光客の増加により、場所によっては売上が回復傾向にある。また、寒冷地特有の天候によりイベントが中止されるなど、販売機会の損失も発生している。

総括コメント

業況は横ばいであるが、店舗間での格差が拡大している。人流の変化に対応する立地戦略や、商店街・観光との連携による集客策が重要となっており、雇用面でも人手確保と人件費の上昇に備えた経営の柔軟性が求められる。

5. 飲食業

売上高	販売客数	販売客単価	営業利益	今後3ヵ月の見通し
やや低調	低調	横ばい	低調	やや低調
前月比 24.6増加	前月比 16.9増加	前月比 13.4増加	前月比 13.9増加	前月比 21.0減少

【項目別DIの推移】

	R6年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年1月	2月	3月
売上高	▲ 33.3	0.0	0.0	33.3	16.7	45.4	0.0	7.7	26.7	▲ 5.9	▲ 22.2	▲ 40.0	▲ 15.4
販売客数	▲ 25.0	0.0	▲ 6.2	16.7	25.0	45.4	▲ 11.1	7.7	13.3	▲ 23.5	▲ 22.2	▲ 40.0	▲ 23.1
販売客単価	25.0	7.7	6.3	16.6	16.7	18.2	22.2	7.7	6.7	0.0	0.0	▲ 13.4	0.0
営業利益	▲ 41.6	▲ 15.4	▲ 37.5	▲ 8.3	▲ 8.4	0.0	▲ 22.2	▲ 53.8	▲ 13.3	▲ 23.5	▲ 61.1	▲ 60.0	▲ 46.1
見通し	16.7	7.7	25.0	25.0	16.7	9.1	11.1	0.0	33.3	▲ 17.6	5.5	13.3	▲ 7.7

<経営者の目・見方・etc>

寿司	・3月に入って降雪が2～3回あったがあまり営業に影響のある雪ではなく助かった。中旬過ぎは春らしい暖かい日が続き、客足が良くそれなりの売上があった。
食堂	・寒暖差があり過ぎた。今年の3月は卒業や入学祝いの予約はあったが一般の来客数が少なく、早く春が来てほしいと思った。
冷凍そば販売業	・注文がない日々である。

(コメント)

地域特性と状況

飲食業では、松本城の桜や歓送迎会などのイベント需要により一時的な売上増があったものの、全体としては来客数が伸び悩み、特にゴールデンウィーク後の需要落ち込みが懸念されている。また、顧客層の高齢化や天候の変動も来店数に影響しており、安定的な集客が難しい状況である。

総括コメント

売上は一時的に改善したが、利益は依然として低調であり、価格戦略やリピーターの確保が課題である。SNSを活用した集客や、地元イベントとの連動企画により、シーズンオフの底上げを図るべきである。

6. サービス業

売上高	販売客数	販売客単価	営業利益	今後3ヵ月の見通し
やや低調	やや低調	やや好調	やや低調	横ばい
前月比 6.1増加	前月比 3.4増加	前月比 8.1増加	前月比 7.6増加	前月比 12.9減少

【項目別DIの推移】

	R6年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年1月	2月	3月
売上高	9.4	17.7	10.5	▲ 2.9	▲ 3.0	9.1	0.0	0.0	▲ 13.3	▲ 15.1	▲ 5.8	▲ 14.2	▲ 8.1
販売客数	12.5	14.7	10.5	0.0	▲ 6.0	▲ 3.0	▲ 6.3	▲ 2.9	▲ 13.3	▲ 17.0	▲ 13.5	▲ 14.2	▲ 10.8
販売客単価	18.8	17.6	23.6	5.7	24.3	21.2	3.1	14.7	2.3	0.0	▲ 5.8	0.0	8.1
営業利益	6.3	▲ 5.9	5.3	▲ 8.6	▲ 3.0	▲ 18.2	▲ 15.6	▲ 5.9	▲ 20.0	▲ 24.6	▲ 17.3	▲ 18.4	▲ 10.8
見通し	9.3	3.0	13.2	8.5	9.1	0.0	6.3	▲ 8.9	▲ 4.5	▲ 15.1	▲ 1.9	10.2	▲ 2.7

<経営者の目・見方・etc>

ホテル	・食材、エネルギー、人件費等全て値上がりしている。値上げしても間に合わない。宿泊税をシステムに組み込むのに費用がかかる。
システムサポート	・井上百貨店の跡地利用の行方に注視していきたい。
ホームクリーニング・リネンサプライ業	・物価上昇に歯止めが掛からない中、米国関税などの影響を含め、先行きの整備投資の陰りに不安である。
旅館	・松本市内の宿泊客の受入数を教えてほしい。ホームクリーニングの売上が順調であった。
	・3週連続で週末の天気が荒れキャンセルがあり予約も伸びなかった。

(コメント)

地域特性と状況

サービス業では、観光客やインバウンド需要の回復が追い風となっているものの、エネルギーコストや人件費の上昇により経営環境は依然として厳しい。宿泊業やクリーニング業では天候不順によるキャンセルの発生、システム対応に係る費用負担なども課題となっている。また、井上百貨店跡地の再開発など地域再編の影響も注視されている。

総括コメント

販売客単価は好調であるが、経費増により利益が圧迫されている。業務効率化のためのDX化や設備投資への公的支援の活用が有効ではないかと考えられており、一部業界観光と連携したプロモーション活動が集客の持続性を支える要素となる。

（全業種に対する総括コメント）

2025年3月時点における松本市内中小企業の業況は、前年同月比・現在水準ともに「やや低調」から「低調」圏に留まっており、業種ごとにばらつきはあるものの、共通して「コスト上昇」と「需要の不安定さ」に悩まされている状況である。

特に、建設業や卸売業では、原材料費や物流費の高騰に対し価格転嫁が進まず、利益確保が困難となっている。一方、製造業やサービス業では、一部で販売単価の上昇が見られるものの、コスト増に見合う売上確保には至っておらず、利益率の改善には及んでいない。小売業・飲食業においても、イベントや観光需要といった季節的要因による波が大きく、安定収益の確保が難しいという声が多く聞かれる。

また、人手不足や人件費の上昇、法制度改正対応といった「構造的負担」も経営に重くのしかかっており、これらに対する抜本的な対応策の必要性が増している。

今後の展望としては、観光需要やインバウンド需要の回復を好機と捉え、地域資源との連携強化やデジタル技術を活用した業務改善（DX）が共通の鍵となる。また、補助金や助成金など外部資源の活用による投資リスクの軽減も重要な打ち手であり、業種を問わず積極的な情報収集と活用が求められる。

総じて、「コスト管理」「需要創出」「地域連携」「制度活用」の4つの柱を軸に、業種特性に応じた戦略的な取り組みが必要である。各事業者にとっては、経営のかじ取りが一層問われる局面であり、支援機関との連携も含めた「経営の見える化」と「意思決定の質の向上」が今後の回復の鍵となるだろう。

7. 任意調査

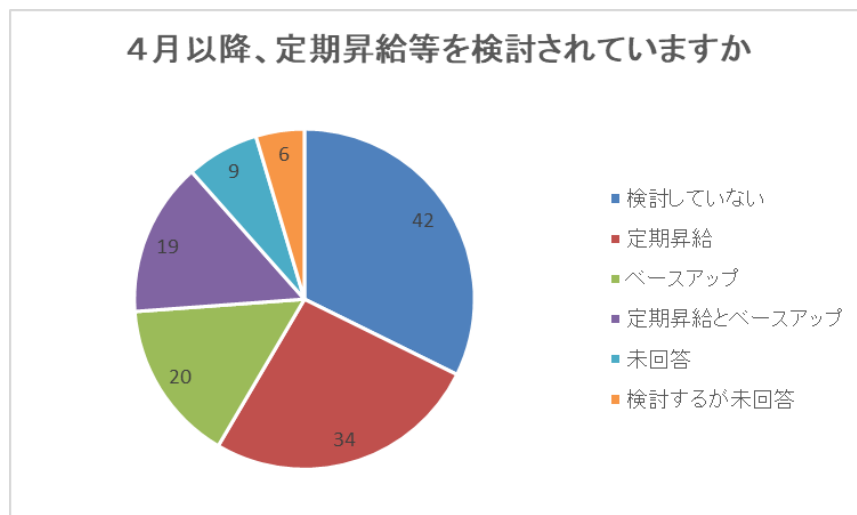
(調査目的)

物価上昇の影響を考慮し、従業員の生活を支えるために、昇給やベースアップに取り組む企業が増えています。今回の調査では、市内企業の昇給やベースアップがどのような状況かを調べるものです。

Q 1. 4月以降、定期昇給等を検討されていますか。

① 定期昇給 ②ベースアップ ③定期昇給とベースアップ

(回答数 130 社)



Q2. Q1で、検討をしているに○をした方にお聞きします。いくらアップをする予定ですか。

①0 円～1,000 円 ②1,001 円～2,000 円 ③2,001 円～3,000 円 ④3,001 円～4,000 円
⑤4,001 円～5,000 円 ⑥5,001 円～6,000 円 ⑦6,001 円～7,000 円 ⑧7,001 円～8,000 円
⑨8,001 円～9,000 円 ⑩9,001 円～10,000 円 ⑪10,001 円以上

